



営農NEWS



促成トマトで灰色かび病の防除対策を徹底 しましょう

「病害虫発生予察注意報」が発表されました

県病害虫防除所の調査によりますと、1月下旬現在、県内8地点の促成トマト調査圃場における灰色かび病の発病株率（本年8.5%、平年0.4%）は平年より高く、発生地点率（本年25%、平年8%）は平年よりやや高かった。例年では、2月頃から発病が多くなる傾向なのに、今冬は昨年12月から発生が目立つ状況で、さらに、気象予報（1月30日発表）の向こう1カ月の気温が平年より高く、日照時間が平年並または少ないと予想され、灰色かびの発生を助長する条件であることから、

令和2年1月31日付で「病害虫発生予察注意報 第3号」 促成トマトで、灰色かび病が例年より多く発生しています 防除対策を徹底しましょう！

を発表しました。

＜防除のポイント＞

- 1) トマトの健全な生育を促すため、適宜な整枝、剪定による採光や通風の確保、適度な灌水や追肥など、適切な肥培管理に努めてください。
- 2) 花卉の落ちが悪いと、果実灰色かび病の発生を助長しますので、出来るだけ枯花を取り除きます。
- 3) 施設内の多湿条件が続くと、急速に灰色かび病が発生します。昼近くになっても、作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により施設内の湿度をできるだけ低くするよう努めてください。
- 4) 被害果などを見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分してください。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となる恐れがありますので）厳禁です。
- 5) 薬剤防除は予防または発病初期から行い、晴れた日の午前中に散布して、夕方までには薬液が乾くようにします。
- 6) 湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」なども活用しましょう。
- 7) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一分類（コード）の連続使用は避けて、ローテーション散布してください。

表1 トマトまたはミニトマト灰色かび病の主な防除薬剤 (令和2年2月3日現在)

薬剤名	トマト	ミニトマト	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
ファンタジスタ顆粒水和剤	○	○	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	11
アフェットフロアブル	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7
セイビアーフロアブル20	○	○	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	12
フルピカフロアブル	○	○	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 4回以内	9
ゲッター水和剤	○	○	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 5回以内	10と1
		○	1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	
ロブラール水和剤	○	○	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	2
ベルコートフロアブル	○	○	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	M7
		○	4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	

注) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは、混合剤です)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

※ 上記の散布剤以外に、暖房機のダクト取り付け口付近から製剤をダクト内に直接投入し、暖房機を数時間以上稼働させることで灰色かび病を予防する微生物農薬(ボトキラー水和剤:分類44:発病前～発病初期)などがあります。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040